元朝秘史蒙古語研究(6)*

——動詞語尾 *-la'ai～-le'ai* について——

小沢重男

§ 1 元朝秘史蒙古語には，所謂 Präsens perfecti の語尾として以下に示すがごとき多くの形が実証される。すなわち，

1. 剌阿-*la'a*～列額-*le'e*
2. 剌埃-*la'ai*～列埃-*le'ai*（列該-*legai*）(1)
3. 魯阿-*lu'a*～魯額-*lu'e*
4. 魯埃-*lu'ai*
5. 剌宜-*layi*～来-*lai*
6. 里吉-*ligi*～里亦-*liyi*

のごとくである。

これらの六系列の語尾の中，(3)の魯阿-*lu'a*～魯額-*lu'e*が，蒙古語文語の -luγa～ -lügeに対応するが，他の五系列の語尾は，この-*lu'a*～-*lu'*eの単なる variants （変種）であり，あるいは方言形であるというのが，最近までの蒙古語学界の趨勢であつたということができよう。しかしながら“これら五系列の語尾群は，果して，単なる変種であろうか？変種としては，数も多過ぎるし，また，*-ligi*～*-liyi* などは，形が少し違い過ぎる。これらの語尾群の中には，何か用法上の相違なり，職能上の相違なりが，ありはしないだろうか”という疑念が，私の頭の中に浮んだのは，もう数年前のことである。その時から，これらの語尾群を精査した結果，(6)の *-ligi*～*-liyi* は「文章の主語が，女性である場合に，その述語動詞の語尾に接尾される

---

* 私は元朝秘史蒙古語に関して，雑誌「耕文」（東京外国語大学耕文会）および東京外国語大学論叢にすでに五回に亘つて小論を発表する機会をもつた。したがつて今回は前の論文を含めて六回目に当ることになるので，論題を「元朝秘史蒙古語研究(6)」と題することにした。今後，元朝秘史蒙古語について文を草する時は常に「元朝秘史蒙古語研究」なる論題の下に発表するつもりである。因みに前五回の論文名を挙げれば以下の如くである。

1. 元朝秘史蒙古語における副動詞語尾 *-run* について。　東京外国語大学耕文会会報第二号1952
2. 元朝秘史蒙古語における副動詞語尾 *-ru* について。　東京外国語大学耕文会会報第三号1953
3. 元朝秘史蒙古語研究(3)— *-u-'ai* について。　東京外国語大学耕文会会報第四号1954
4. 元朝秘史蒙古語の動詞語尾—特に *-bi*と*-ligi*～*-li'i* について。東京外国語大学論叢 vol 4 1955
5. 元朝秘史蒙古語研究(5)—実詞の複数形および女性形に関連して—「耕文」
東京外国語大学耕文会　1956

なお，この他に，これらと密接な関係のあるものとして，つぎの二小論をつけ加えておきたい。

（以下次頁へ）

女性形である」ことが判明し，そのことに関して，「元朝秘史蒙古語における動詞語尾——特に *-bi* と *-lig*～*-liyi* について――(2)」なる小論を数年前に発表した。しかし，他の語尾群に関しては，暗中模索のまま最近に到り，現在においても，問題の総ては決して解決されていない。この問題の最終的な解明は，将来の研究に委ねられねばならない。したがつて，以下に私の記する所は，いわば，最終的解明への一つの足掛りであり，中間報告の一つである。

さて，今回は，上記語尾群の中，(2)剌埃 *-la'ai*～列埃 *-le'ai* および(4)魯埃 *-lu'ai* について卑見をのべることにする。

§ **2** この二系列の語尾の一方，すなわち，*-lu'ai*～*-lugai* については，対応の文語形 -luɣai～-lügei が認められることは N. Poppe 教授のつぎの記述からも明らかである。(3)

351 (前略) The suffix is *luɣa/-lüge* in the classical language, with the union vowel-*u/-ü*, added to stems ending in consonants. In the pre-classical language the suffix is *-luɣai/ -lügei* or sometimes *-laɣa/-lege.*

すなわち，Poppe 教授にしたがえば，*-luɣai/-lügei* および *-lea/-lege* は前古典期の言語において用いられる接尾辞であり，古典期の言語では *-luɣa*～*-lüge* であるということになる。しかし，元朝秘史蒙古語では，*-luɣa* に対応する *-lu'a* も，*luɣai* に対応する *-lu'ai* もさらに，*-laɣa* に対応する *-la'a* も総て現われているから，この記述によつては，何等の解決も与えられない。

また，A. Mostaert 師も，Trois Documents Mongols (4) の註 (p. 460) においてつぎのごとくのべている。

Büleyi. Praesens perfecti de bü- "être". La forme *büleyi* est une forme dialectale correspondant à *bülüge~bülügei; bülege~bülegei* du mongol écrit. En mongol médiéval nous rencontrons les formes suivantes: *büle'e* (Hist. secr., § 3 〔1. 2b 4〕, Houa i i iu IIa, 6a 4); *büle'ei* (Hist. secr., § 173 〔6. 14b 4〕); *bülegei* (id., § 251 〔11. 12 a1〕); *büliyi* (id.,§ 56 〔1. 37a5〕); *büligi* (id., § 155 〔5. 22b 4〕). —後略—。

モスタエルト師にしたがえば，「*büleyi* は *bü-* の Praesens perfecti で，文語 *bülüge*～*bülügei, bülege*～*bülegei* の方言形であり，また，中期蒙古語においては，元朝秘史に，*büle'e, büle'ei, bülegei, büliyi, büligi* などの形がみられる」ということである。

büleyi が文語形の *bülüge* 等々の方言形であるということ自体が，すでに疑問であるが，ここでは触れないことにして，当面の問題である *-lüge*～*-lügei, -lege*～*-legei* に対し，何等の疑問もなく「文語 *bülüge*～*bülügei, bülege*～*bülegei*」とのべておられることは，師がこの

1. 中期蒙古語における二つの動詞語尾「亜細亜語研究」6号 1954
2. 中期蒙古語における女性形・動詞語尾の一系列「耕文」6号 東京外国語大学耕文会 1955
この二論文をも含めると，今回は「元朝秘史蒙古語研究(8)」になるわけだが，上の二論文は，元朝秘史蒙古語のみを扱つたのではないので，一応除外して，「元朝秘史蒙古語研究(6)」とすることにした。

-lüge～lügei～-lege～-legei が単なる変種関係に過ぎないと見做していることを明白に物語つている。

しからば，現代蒙古語学界の二頑学が，アプリオリに単なる変種関係と見做しているこれらの語尾群は，果して，単なる変種関係であろうか。以下に私の見解を記して，大方諸先輩の御叱正を乞いたいと思つている。

§ **3** 〔1〕 剌阿*-la'a*～列額*-le'e*と剌埃*-la'ai*～列埃*-le'ai* について。

先ず第一に．*-la'a*～*-le'e* と *-la'ai*～*-le'ai* とが，元朝秘史蒙古語全十二巻において，いかなる動詞語幹に附され，何回用いられているかを調べてみよう。

(a) *-la'a*～*-le'e* の接尾された語

語　例	場　所	回　数
阿亦速剌阿 *ayisu-la'a*	一42八	1
阿不剌阿 *abu-la'a*	二９四；三17－；七44四	3
斡都剌阿 *odu-la'a*	二35一；二41八	2
中合吾魯剌阿 *qaru-la'a*	二50六；二50七；三25二	3
迓步剌阿 *yabula'a*	五４三；五26二	2
不勒中合勒都剌阿 *bulqaldu-la'a*	六51八	1
中合吾兒錄剌阿 *qarbu-la'a*	四49七	1
阿余兀勒荅剌阿 *ayu'ulda-la'a*	八10四	1
阿余兀魯剌阿 *ayu'ulu-la'a*	八22三	1
孛魯剌阿 *bolu-la'a*	八28五	1
把吾里黑荅剌阿 *bariqda-la'a*	三38九	1
不列額 *bu-le'e*	一2九，十；一3五；一７三；	152
〃　〃	一10二，六；一13三，四；一17九；	
〃　〃	一18十；一23八，九，十；一25五，八；	
〃　〃	一25八，九，十²；一26九；	
〃　〃	一27一，四，五，六，七；一28二，四，六	
〃　〃	一29四²，六；一30三，四，六，十；一31一，	
〃　〃	四，五，六，九，十；一32一，二；一39四；	
〃　〃	一41七²，八²；一43八；一45五；	
〃　〃	一47二；一49一；二15五；二	
〃　〃	17五；二22十；二27五；二28一；	
〃　〃	二33六，七；二39二；三15九；三21	
〃　〃	四；三28九；三31四；三45九；四８	
〃　〃	五，六，十；四12一；四25五²；四28二，	
〃　〃	七，八²，九，十；四41十；四42三，七，九；	
〃　〃	五３十；五４四；五19六；五25九；五	
〃　〃	30七；五45二；五46五；六22十；六	
〃　〃	23一；六31五；六35一；六36六，八，十；	
〃　〃	六37一；六38六，七，八；六41一，八，九；	
〃　〃	六42一；六51八；六52三；七９二；	
〃　〃	七29七；七33七；七37七；八14九；	

〃 〃	八15一, 三; 八18十; 八20六; 八21五;	
〃 〃	八36六; 八37八; 八44四; 八47七;	
〃 〃	九２四; 九４十; 九７二; 九13八; 九15二,	
〃 〃	三, 十; 九17一; 十27一, 七; 十30一, 二, 四,	
〃 〃	七, 八; 十37六; 十38八; 十39	
〃 〃	十; 土24一, 二, 四; 土27三; 土40	
〃 〃	一; 土３十; 土29七; 土32六, 七;	
〃 〃	土33八²; 土35一	
亦舌列列額 *ire-le'e*	二45二	1
鳴詰列列額 *ugule-le'e*	三１八; 七10二; 七47二	3
鳴詰列勒都列額 *ugueldu-le'e*	八17五; 八17八	2
客額列額 *ke'e-le'e*	三２三	1
脱舌列兀魯列額 *tore'ulu-le'e*	七10四	1
乞列額 *ki-le'e*	八28三	1
斡克帖列額 *ogte-le'e*	五46七	1

以上のごとく，*-la'a* は「阿亦速 *-(ayisu-)*」をはじめとする 11 の語幹に附された17例がみられ，*-le'e* は「不列額 (*bule'e*)」の 152 例を除外すると，他の７語幹に接尾された10例がみられる．*bule'e* "……であつた" が，この様に多くみられるのは秘史のごとき性質の文献として当然過ぎる程，当然である。つぎに *-la'ai～-le'ai* について調べてみる。

（h） *-la'ai～-le'ai* の接尾された語例

語例	場所	回数
阿不剌埃 *abu-la'ai*	四14五	1
阿亦速剌埃 *ayisu-la'ai*	五６四	1
阿剌埃 *a-la'ai*	土８六	1
啜可列埃 *coko-le'ai*	二37一	1
客額勒都列埃 *ke'eldu-le'ai*	三26五; 四20五; 五16一;	5
〃 〃 〃	六21十; 六22四, 七	
客額列埃 *ke'e-le'ai*	六35五; 九28九	2
不列埃 *bu-le'ai*	四４五; 四９五; 四18二, 九; 五46七;	21
〃 〃	六２十; 六14五, 九; 七11七;	
〃 〃	七24十; 七37一; 八34一; 八44一;	
〃 〃	九５九; 九15六; 九19七, 八, 九; 十26	
〃 〃	十; 十44三, 十; 土20四; 土26六; 土	
〃 〃	35九; 土36一; 土37三	
亦舌列兀勒列埃 *ire'ul-le'ai* *	五９五	1

上記のようにの，*-la'ai～-le'ai* の語例は *-la'a～-le'e* に比してぐつと少く，*-la'ai* の接尾された語は３語に過ぎず，*-le'ai* の方も *bule'ai* の語例を除けば，４語幹に接尾された９例

* 後で気付いたのだが〔土24十〕に脱舌列列埃が１例みられるので，ここに附加されねばならない。

に過ぎない。*bule'ai* も *bule'e* の 152 例に較べればずっと少くて21例である。

さて，*bule'e* の 152 例と *bule'ai* の21例を除いて考えると，*-la'a～-le'e* の接尾された形が19語*，*-la'ai～-le'ai* の接尾された形が 8 語*ということになる。

〔2〕 魯阿 *lu'a～* 魯額 *-lu'e* と魯埃 *-lu'ai*（魯該 *-lugai*）について。

つぎに，*-lu'a～-lu'e* と *-lu'ai*（*-lugai*）との関係を調べてみることにする。

---

* この数は数例あるものも，総て１として計算したものである。たとえば *bule'e* などは152例，*abula'a* は３例みられるが，これらをいずれも１として計算したものである。したがつて当然語幹数と一致する。

（c） 魯阿 *-lu'a* ～ 魯額 *-lu'e* の接尾された語例

語例	場所	回数
阿魯阿 *a-lu'a*	一26四	1
阿亦速魯阿 *ayisu-lu'a*	一43一	1
伊都吉剌魯阿 *nidura-lu'a*	二３七	1
潮兀吉列魯阿 *ceu'ure-lu'a*	二３八	1
中合魯魯阿 *qaru-lu'a*	四43四	1
把吉里黑答魯阿 *bariqda-lu'a*	五28八	1
逐步魯阿 *yabu-lu'a*	六６四; 六４九; 六35八	3
保兀魯阿 *bau'u-lu'a*	七25四	1
巴吉剌魯阿 *bara-lu'a*	八39九	1
阿剌黑答魯阿 *alaqda-lu'a*	八21九	1
巴吉剌黑答魯阿 *baraqda-lu'a*	十44七	1
塔勒必魯阿 *talbk-lu'a*	十19九	1
斡都魯阿 *odu-lu'a*	四43一	1
亦惕中合魯阿 *idqa-lu'a*	七47六	1
客列魯額 *kele-lu'e*	二23二	1
客額魯額 *ke'e-lu'e*	八５一; 十35二; 十３五	3
斡古魯額 *ogu-lu'e*	十16六	1
鳴詰列魯額 *ugule-lu'e*	十４五，六	2
客額克迭魯額 *ke'egde-lu'e*	十23六	1
客卜帖兀勒魯額 *kebte'ul-lu'e*	十38七	1

（d） 魯埃 *-lu'ai-* の接尾された語例

語例	場所	回数
鳴詰列勒都魯埃 *uguleldu-lu'ai*	六22二	1
乞克迭魯埃 *kɪgde-lu'ai*	十30八	1
孛勒中合黑荅魯埃 *bolqaqda-lu'ai*	十30九	1

上表のごとく，*-lu'a～-lu'e* が現われるのは，20の動詞語幹に接尾された24例，*-lu'ai*（*-lugai*）が現われるのは，３例である。

以上の調査によつて明らかなごとく，古典期文語形の -luɣa～-lüge に対応する *-lu'a～*

-lu'e と前古典期文語形の -laγa～-lege に対応する *-la'a～-le'e* とは略々同数の語幹（前者は20語幹，後者は19語幹）に接尾された形がみられ，その中には，*ayisu-lu'a* : *ayisu-la'a*, *yabu-lu'a* : *yabu-la'a*, *odu-lu'a* : *odu-la'a*, *qaru-lu'a* : *qaru-la'a*, *bariqda-lu'a* : *bariqda--la'a* のように同一語幹にそれぞれの語尾が接尾された形もみえている。この *-lu'a～-lu'e* と *-la'a～-le'e* とが，単なる変種関係にある語尾か否かを究明することが，最初にのべた五系列の語尾群の研究の中では，もつとも根本的なもののごとく私には思われる。

併しながら，この根本的な問題に対する私の調査は，未だ不十分であり，卓見を発表する時期ではないので，この問題は後考にゆずつて，本稿の目標である「剌埃*-la'ai*～列埃 *-le'ai*」および「魯埃*-lu'ai*」について，以下にのべることにしたい。

§ **4** 剌埃 *-la'ai*～列埃*-le'ai* について。

まず *-la'ai～-le'ai* の用いられた実例の若干を，*-la'a～-le'e* と比較対照しながら調べてみる。（*-la'ai～-le'ai* の実例総てを挙げるべきであるが，紙数の関係もあり，また，幾分，繁雑にも過ぎるので，その若干例を挙げるにとどめた。全例に目を通されることを御希望の方は，上記の表によつて，実際に「秘史」に当つて，お読み下されば幸である。）

〔1〕 (a) 〔一42八〕 德薛禪 | 鳴詰列吉論 | 也速該忽荅 | 処途児 | 勺吉里周

名 | 説 | 親家 | 誰行 | 指着

Dei Secen | *ugule-run* | *Yesugai quda* | *ken-dur* | *joriju*

阿亦速剌阿 | 客額主兀

来 | 説有

ayisula'a | *ke'eju'u*

〔デイ・セチェン曰く“親族なるイェスゲイ（汝）誰を目指して来れる”といえり〕

(b) 〔五6四〕 必荅 | 別耶昔顔 | 成吉思忽合罕納 | 古出 | 斡古吉剌 | 亦吉列罷 | 巴

咱 | 身子自的行 | 皇帝行 | 気力 | 与 | 来了 | 俺

bida | *beyes-iyan* | *Cinggis qahan-a* | *gucu* | *ogura* | *ireba* | *ba*

客額周 | 斡都牙 | 塔吉児忽台宜 | 把吉里周阿亦速剌埃 | 図忽 | 忽合你顔 | 帖卜臣

説着 | 去咱 | 人名行 | 拿来了 | 正主 | 皇帝自的行 | 捨

ke'eju | *oduya* | *Tarqutai-yi* | *bariju ayisula'ai* | *tus* | *qan-iyan* | *tebcin*

牙荅周 | 兀者額惕 | 客吉児 | 兀窟兀勒坤 | 客額周 | 塔勒必周 | 亦列周 | 巴 | 不失吉連 | 古出

不能着 | 看着 | 怎生 | 教死 | 説着 | 放着 | 去着 | 俺 | 信実 | 気力

yadaju | *uje'ed* | *ker* | *uku'ulkun* | *ke'eju* | *talbiju* | *ileju* | *ba* | *busilen* | *gucu*

斡克連客延 | 亦吉列罷 | 巴 | 客額耶 | 客額罷

与 | 麼道 | 来了 | 俺 | 説咱 | 説了

ogsu | *keyen* | *ireba* | *ba* | *ke'eye* | *ke'eba*

『われら自身，チンギス可汗に力を与えるべく来れり，われら」といいて行かん，「タルコタイを拿り来れり，（されど）われら自身の汗を断つ能わず "児つつ如何ぞ死なしめん" と放しやりて，"われら信ずべき力を与えん" と来れり，われら」といわん』といえり．

〔2〕

巴撒	不古児罕中罕	鳴詰列古論	成吉思	中合阿納	捏古列	阿勒荅古児
再	人名	説	太祖	皇帝的	名	声
basa	*burhan qan*	*ugulerun*	*Cinggis*	*qa'an-u*	*nere*	*aldar*

莎那思抽	阿余周	阿剌埃	巴……後略
聴着	怕着	有来	俺
sonoscu	*ayuju*	*ala'ai*	*ba*

〔また，ボルカン汗の曰く「チンギス可汗の名声を聞きて，おそれてありき，われら…」〕

〔3〕〔五9五〕

田迭	土綿	禿別干	斡欒	董中合亦惕	不塔古剌黒三
那裏	万	姓	多	姓	潰散了的
tende	*tumed*	*Tubegan*	*Olon*	*Dungqayid*	*butaraqsan*

客古列亦惕	亦古児堅	別児	成吉思中合罕突古児	斡古羅周	亦古列兀列埃
種	百姓	別	太祖 皇帝 行	投人着	来了来
Kereyid	*irgen*	*ber*	*Cinggis qahan-dur*	*oroju*	*ire'ule'ai*

そこに，トゥメン・トゥベゲン，オロン・ドンガイド，四散せるケレイトの民もチンギス可汗の下に投じ来れり。

〔4〕〔四18九〕

成吉思中合罕	馬石	乞合剌周	鳴詰列古論	主古児勤捏	客古児
太祖 皇帝	好生	怒着	説	種名	怎生
Cinggis qahan	*masi*	*kilinglaju*	*ugulerun*	*Jurkin-e*	*ker*

額因	乞克顛	不列埃	必荅
這般	被做	有来	咱
eyin	*kigden*	*bule'ai*	*bida*

〔チンギス可汗，激怒して曰く「ヂュルキンに，いかで，かく為されありしか，われら」〕

〔5〕〔六14九〕

孛古羅中忽勒	帖古列	兀格突古児	亦古列額連	中合惕中忽勒都中渾
人名	那	言語裏	来呵	斬殺
Boroqul	*tere*	*uge-dur*	*ire'esu*	*qadqulduqun*

不列埃	荅亦納	不古魯為闌	歌多勒迭額連	必荅	扯古里吉顔	只卜失額児抽
有来	敵行	躲	動了呵	咱每	軍自的行	整擲着
bule'ai	*dayin-a*	*buru'uilan*	*godolde'esu*	*bida*	*cerig-iyan*	*jibsi'ercu*

中合提中忽勒都抔者　客額周　歌多勒罷
斷殺　也者　　說着　　動　了
qadquldud-je　*ke'eju*　*godolba*

（ボロコルはその言葉に「(敵)来らば，交戦すべきなり，敵に退き動かれなば，われらは軍を整えてから交戦せん」といいて動けり。）

〔6〕〔420五〕中豁亦納察　阿納　捏客周　帖列禿　阿馬撒禿剌　吉亦扯周　撒察別乞
自　後　　他的　　襲着　　地名　　口　行　　趕上着　　人名
qoyinaca　*anu*　*nekeju*　*Teletu*　*amasar-a*　*guyiceju*　*Saca Beki*

泰出　中豁牙禿里　把禿里罷　把禿里周　成吉思中合罕　撒察　泰出　中豁牙禿剌　鳴詰列禿論
人名　画箇行　　拿　了　　拿　着　　太　祖　皇帝　　人名　人名　画箇行　　說
Taicu　*qoyar-i*　*bariba*　*bariju*　*Cinggis qahan*　*Saca*　*Taicu*　*qoyar-a*　*ugulerun*

額禿兒帖　兀都兒　必荅　牙兀　客額勒都列埃　客額克迭周……
在　先　　日　　咱　甚　　共　說　来　　被　說　着
erte　*udur*　*bida*　*ya'u*　*ke'eldule'ai*　*ke'egdeju*

（かれらの後より追いて，テレトの入口にて追付き，サチャ・ベキ，タイチュの二人を捕えぬ。捕えて，チンギス可汗は，サチャ，タイチュの二人に曰く「以前，かれらは何といい合しか」といわれて……。）

*　　*　　*　　*　　*　　*

上記の6例を慎重に観察すれば，*-la'ai～-le'ai* は，ある一点において，*-la'a～-le'e* と用法上の相違が厳存することを知りうるであろう。その一点とは，*-la'ai～-le'ai* が接尾されている動詞の主語が，総て，複数の実詞であることである。結論を先にのべれば，「*-la'ai～-le'ai* は，*-la'a～-le'e* の複数形」なのである。

〔1〕の(a)の阿亦速剌阿 *ayisu-la'a* "来れり" の主語は也速該 *Yesugai* であり，勿論単数である。しかるに(b)の阿亦速剌埃 *ayisu-la'ai* の主語は，(b)の文章をよく読めば明らかなごとく「巴*ba*」すなわち "吾等" である。また，〔2〕の阿尓周阿剌埃 *ayuju a-la'ai* "恐れていた" のは誰かといえば，矢張り "吾等" すなわち「巴*ba*」である。

さらに，〔3〕の斡禿羅周亦禿列兀列埃 *oroju ire'ule'ai* "投じ来れり" の主語は *Tumen Tubegan*（種族名），*Olon Dungqayid*（種族名）であり，さらに *Kereyid irgen* "ケレイトの民" である。勿論，これらの諸語は複数形—— *Tubegan* の *-n*，*Dunggayid* の *-d* は，ともに，複数形成の接尾辞であり，*irgen* "民" も文法的には複数扱いの語である——である。

〔4〕の乞克顛不列埃 *kigden bule'ai* "されてありしか" の主語も「必荅 *bida*」 "吾々" である。

また，〔5〕の中合禿中忽勒都中渾不列埃 *qadquldugun bule'ai* "交戦すべきなりき" の場合

においては，*qadquldu-* "戦闘する，突き合う" に複数形の形動詞語尾 *-qun* が附され，その上に *bu-* に *le'ai* が附された，いわば二重の複数形である。勿論，この活用連語の主語は「必答*bida*」"吾々" であることは明白である。

最後の例〔6〕における，必答牙兀客額勒都列埃 *bida ya'u ke'eldu-le'ai* "吾々は何と言い合つたか" に関しては，もう贅言を要しない位に *ke'eldu-le'ai* "言い合つた" の主語が *bida* "吾々" であることは明らかである。

ここに挙げた6例の他，未だ示しうる例は数多いけれども，紙数の関係もあり，また，余りに冗漫に流れることをおそれてここには示さない。他の諸例をみても，殆ど総ての場合において，*-la'ai～-le'ai* の接尾された動詞に対する主語が，複数形の実詞であることをわれわれは発見しうる。中には，主語が複数形であるかどうか，はつきりしない場合も若干存するが，それも，前後の文章を熟読することによつてまず解決しうるものばかりであるといえる。たとえば

〔四14五〕 成吉思中合罕 脱斡西鄰勒 中罕 中豁牙西児 帖因 中豁西児中合剌黒撒的

太祖 皇帝 人名 皇帝 両個 那般 塞子 把了的行

Cinggis qahan To'orinl qan qoyar teyin qorqalaqsad-i

篾古真薛兀勒図宜 中豁西児中合納察 亦納 把西里周 篾古真薛兀勒図宜 田迭 阿剌周

人名行 塞子処 他的 拿着 人名行 那裏 殺着

Megujin Se'ultu-yi qorqan-aca inu bariju Megujin Se'ultu-yi tende alaju

蒙琨 斡列該 塔納禿 欺只列 亦納 成吉思中合罕 田迭 阿不剌埃

銀 揺車 大珠有的 被 他的 太祖 皇帝 那裏 要了来

munggun olegai tanatu kunjile inu Cinggis qahan tende abula'ai

（チンギス可汗，トオリル汗の二人は，かく塞によれるものども，メグジンセウルトを，その塞より捕えメグジンセウルトをその場にて殺し，彼の銀の揺車，真珠母をちりばめる布団をば，チンギス可汗そこに取れり。）

上文における *abula'ai* "取れり" の主語は成吉思可汗であつて，複数の語ではない．したがつて，この *-la'ai* は複数形とは認められないというかも知れない。併し，この文の最初の「成吉思中合罕脱斡西鄰勒中罕中豁牙児 *Cinggis qahan To'orinl qan qoyar* "チンギス可汗とトオリル汗の二人は"」に注意すべきである。この文章は最初の「成吉思中合罕……」から終りの「阿不剌埃」までは内容的には一つの文章であり，その主語は一貫して "チンギス可汗とトオリル汗の二人は" である。それゆえにこそ，ここに阿不剌埃 *abu-la'ai* なる複数形の動詞語尾が用いられたものである。*abu-la'ai* の前に，「成吉思中合罕」なる語がみられるのは，特にチンギス可汗を引立せるために挿入されたと考えられ，『元朝秘史』という書物の

性質からして決して不思議なことではない。

*　　*　　*　　*　　*　　*

-la'a～-le'e と *la'ai～-le'ai* とは単なる変種関係にある語尾ではなく，後者は前者の複数形語尾であることが，以上の記述によつて明らかになしえたと私は考える。それでは，つぎの魯阿*-lu'a～* 魯額 *-lu'e*と魯埃 *-lu'ai*（魯該 *-lugai*）との関係を吟味してみよう。

§ **5** 魯阿 *-lu'a～* 魯額*-lu'e* と魯埃 *-lu'ai* について.

-lu'a～-lu'e の20数例に対し，*-lu'ai* はわずか3例を発見しうるに過ぎないから，この3例を以下に示してみよう。

〔1〕 (a)　不古児中罕　鳴詰列古論　荅阿古荅中忽　兀格　必　額薛　鳴詰列魯額　客額主為

人　名　　說　　譏諷的　言語　我　不曾　　說　来　　說了

Burqan　ugulerun　da'arinqu　uge　bi　ese　ugulelu'e　ke'eju'ui

〔ブルカンのいう“侮辱せる言葉を，云わざりき”といえり。〕

(b)〔六22二〕　勺古幅中合勒中忽納　忽剌阿納屹楊　孛勒荅屹楊塔　必荅　額薛兀

山　名　的　　山　名　　行　　咱　　不曾

Jorqalqun-u　hula'anud　Bolda'ud-ta　bida　ese'u

鳴詰列勒都魯埃

共說来麼

uguleldulu'ai

〔ジョルカルコンのホラーノット・ボルダオットで，吾々は言い合わざりしか。〕

〔2〕〔七30八，九〕　額児帖　阿勒堅　中忽察古児　中豁牙古児　額捏　箋図　兀格

在前　人名　人　名　両　箇　這　般　言語

erte　Altan　qucar　qoyar　ene　metu　uge

巴古剌勒都周　只池　兀格思　禿古里顔　兀祿　古古児古因　禿剌　客克児　乞克迭魯埃

議定了着　却　言語每　自的行　不　到　的　上頭　怎　被做来

baralduju　jici　uges　-tur-iyan　ulu　gurgu-yin　tula　ker　kigdelu'ai

黯巴古児　孛勒中合勒荅魯埃

怎　被做了承

yambar　bolqaqdalu'ai

（かつて，アルタン，クチャルの二人は，かくのごとき言葉を約し合い，しるかに，この言に到らざるが故に，いかに為されしか，いかにか為されし！）

以上の3例によつて，すでにおわかりのことと思われるが，*-lu'ai* は *～lu'a～ lu'e* の複数形なることが明らかになつた.〔1〕の(a)の*ese ugule-lu'e* “いわざりき”の主語は，いうまでもなく「必*bi*」（私）であり，（b）の *ese uguleldu-lu'ai* “いい合わざりき”の主語は「必荅*bida*」（吾

々）である。また，〔2〕の *kigde-lu'ai* "為されり"，*bolqaqda-lu'ai* "為されり"，も，*Altan Qucar qoyar* "アルタンとホチャルの二人" が，その主語である。3例のみしか実証できないが，*-la'ai～-le'ai* が *-la'a～-le'e* の複数形なることと合わせ考えるならば *-lu'ai* が *-lu'a～-lu'e* の複数形であることはまず疑いないといつてよいと思う。

§ **6** 以上で，私が，本稿で述べるべきことは終つたが，今まで述べたことをここにまとめてみたい。

1. 剌阿-*la'a*～額列-*le'e*
2. 剌埃-*la'ai*～列埃-*le'ai*
3. 魯阿-*lu'a*～魯額-*lu'e*
4. 魯埃-*lu'ai*
5. 剌宜-*layi*～来-*lai*
6. 里吉-*ligi*～里亦-*liyi*

上の6系列の語尾の中，(6)の *-ligi～-li'i* は女性形語尾であり，(2)の *-la'ai～-le'ai* は(1)の *-la'a～-le'e* の複数形語尾，(4) の *-lu'ai* は (3) の *-lu'a～-lu'e* の複数形語尾であることが，すでにして明らかになつた。そして，(5)の剌宜 *-layi*～来-*lai* もおそらく *-la'ai* と同様と見做されるので，ここに残つた最後の問題は，(1)の *-la'a～-le'e*と(3)の *-lu'a～-lu'e* とである。この両者が，意味，職能，用法等の点から何等の相違のない，単なる変種関係にあるか，それとも，未だわれわれにはわからない何らかの区別に立つて用いられたものであるか，現在のところ，私には不明である。併しながら，私の感じでは——これは，あくまで「感じ」であつて，今の所，何の根拠もないが——この二者も，何らかの区別の下に使い分けられていた語尾ではなかろうかと思つている。今後の考究の課題として，なお，私に残つた問題の一つであろう。

昭和34年10月15日夜半

〔註〕 1 列該 *-legai* は蒙古語音を考慮に入れれば，*-legei* と転写すべきであろう。「該」は「兀該」*ugai*，「迭列該」*delegai* その他の語において用いられているが，蒙古語音の *gei* を写すのに用いられたことは，「兀該」，「迭列該」に該当する蒙古語が *ügei*, *delegei* であることからも知られるし，その上，「該」は女性語の中に用いられていることが，圧倒的に多いから，列該，兀該，迭列該等々の諸語を *-legei*, *ugei*, *delegei* のごとく転写することも，元朝秘史蒙古語の転写に際しては，大部分が可能であるといえると思う。

〔註〕 2 小沢重男：元朝秘史蒙古語の動詞語尾
——特に-biと-ligi～-li'iについて——東京外国語大学論叢 Vol 4 1955

〔註〕 3 N. Poppe : Grammar of Written Mongolian. Wiesbaden 1954

〔註〕 4 A. Mostaert, F. W. Cleaves: Trois Documents Mongols des Archives Secrètes Vaticanes. Harvard Journal of Asiatic Studies. Vol. 15 1952

〔註〕 5 剌宜 *-layi* 来 *-lai* の用いられた例は少く，はつきり断定しえないが，〔三17八〕の「阿塔来」*abta-lai* "取られた" と〔五32二〕の「脱斡来」*to'o-lai* "数えた" は複数の主語に対する述語動詞の語尾として用いられているから，おそらく，*-la'ai* を縮めて，「剌宜」，「来」の字で写したものと思われる。

A Research on the Language of "Secret History of Mongols" (6)

——Especially on *-lu'ai* : *-la'ai/le'ai*——

Shigeo Ozawa

In the language of "Secret History of Mongols," we can find three groups of of Präsens perfecti ending, that is, (a) *-lu'a/lu'e* : *-u'ai* (b) *-la'a/-le'e* : *-la'ai/-le'ai* : *-lai* (C) *-li'i/ligi.*

Among these endings, *lu'a/-lu'e* only corresponds to *-luγa/-lüge* in Classical Written Mongolian, but we can scarcely find in Classical Written Mongolian the other endings, such as *-la'a/-le'e, -la'ai/-le'ai* and so on.

I wrote an article on *-ligi* a few years ago, in which I demonstrated that *-li'i/-ligi* was the feminine forms of *-lu'a/-lu'e*, and so on. Now I am going to show my view of *-la'ai/-le'ai* and *-lu'ai* in this article. In my opinion, *-la'ai/-le'ai* : *-lu'ai* are the plural forms of *-la'a/-le'e* : *-lu'a/-lu'e* and I could induce this fact from many examples in the language of "Secret History of Mongols."

Therefore, the last question is whether *-lu'a/-lu'e* and *-la'a/-le'e* are different in their functions and grammatical meanings or not, but I cannot help reserving my answer to this question, because my research has not reached the point so far. I believe this is one of the questions left unresolved in the study of "Secret History of Mongols."